

## 紫波の歴史をかるたで伝承 歴史かるた委員会が発足

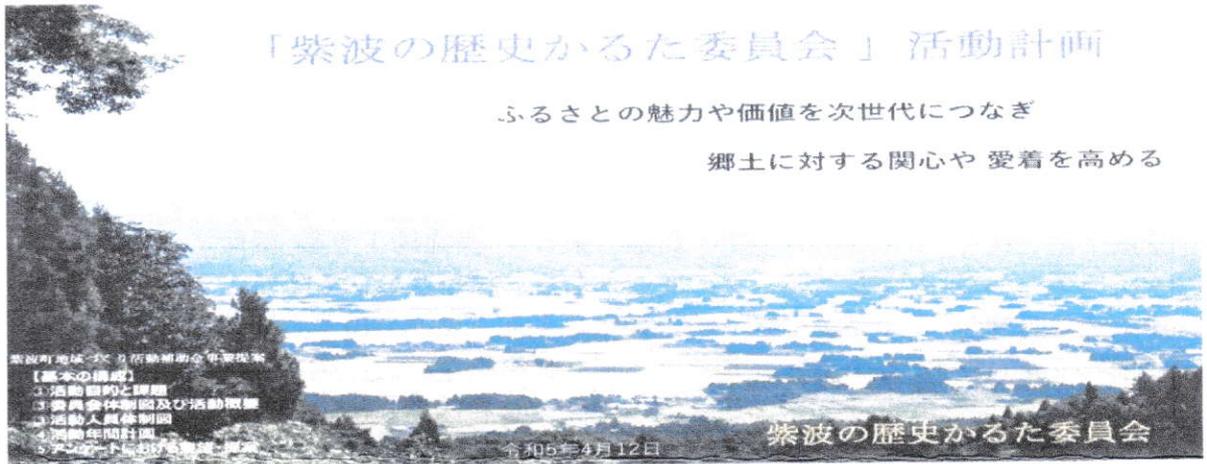
このたび、町内の歴史関係5団体が核となり紫波の歴史かるた委員会を発足させた。委員会活動の目的として、紫波町には、縄文時代から現代まで豊富な歴史・文化遺産があり、歴史かるたを通して、ふるさとの魅力や価値をこれからの町の将来を担っていく子どもたちに伝え、地域に対する関心や愛着を高めることとしている。

背景には、現状の普及啓蒙・伝承活動は一律に歴史講演会・フォーラム、個々の研究および活動発表会等の参加者は常にシニア世代であり、自身のスキルアップ、自己研鑽に留まっている。また、少子高齢化の進展に加え、世代交代や核家族化等もあり会話による伝承の機会が少なくなり、ますます身近な歴史の伝承が困難となっている。

現在、町内の歴史関係団体はシニア世代で構成されており、歴史・文化遺産の伝承が途絶えないうちに次世代へ伝承していくことが必要となり、誰でも簡単かつ気軽に参画できる環境づくりへの取り組みが、喫緊の課題として取り上げられている。

この対策の一環として、紫波の歴史かるた委員会では、かるたの原案を公募するとともに、協働研究で県立大学総合政策部・紫波総合高校の授業に組入れ、絵札・読札の企画や製作等を行う。完成品は、来年2月に開催する紫波の歴史かるた大会にて使用する。

また、年齢層に応じて作成された歴史かるたは、小中学校、高校、学童保育施設、公民館等に贈り、その活用を通して、次世代へ歴史・文化遺産の伝承を図る一助とする。



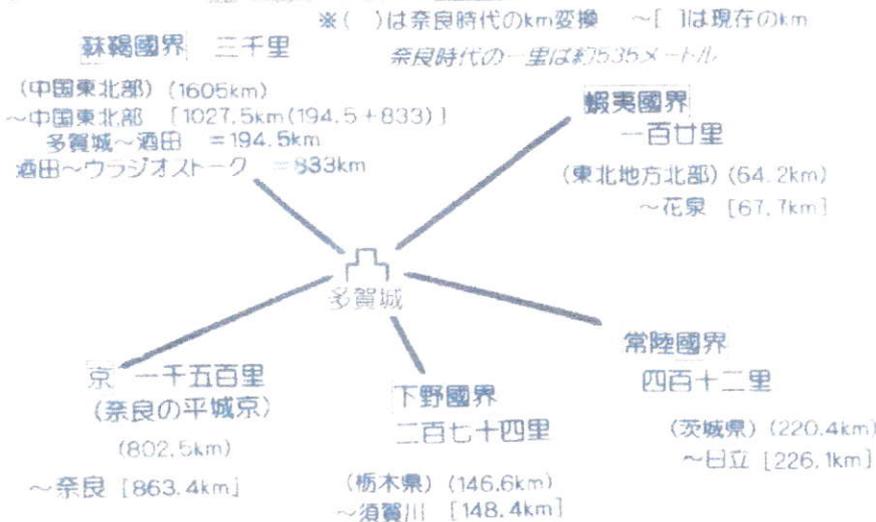
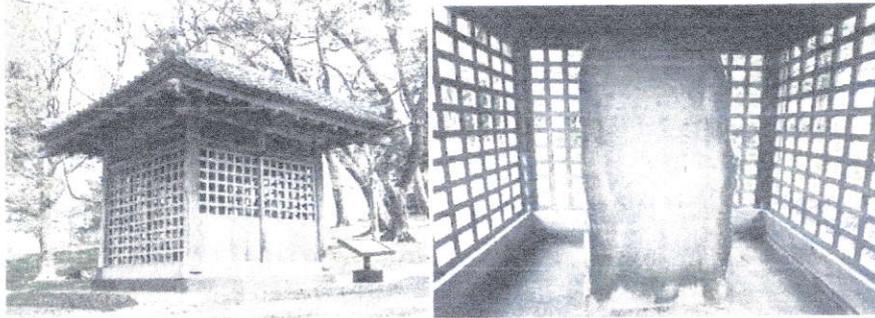
### 《《《 6月～7月行事予定のお知らせ》》》

<p>6月11日 (日曜日)</p>	<p>第29回 定期講演会</p>	<p>時間 午後1時30分～3時30分 場所 赤石公民館 講堂 演題 「南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡 北条館遺跡について」発掘調査の報告 講師 (公財)岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 調査課 文化財専門員 村田 淳氏 会費 会員200円 会員外500円</p>
<p>7月19日 (水曜日)</p>	<p>第141回 月例発表会</p>	<p>時間:午後7時～9時 場所:赤石公民館 和室 テーマ 講談「須川長之助とマキシモビッチ博士」 発表者 大沢斗志子 テーマ 「北方の民 1(5月の続き)」 発表者 金濱興一</p>

令和5年5月17日に開催した第140回月例発表会において、発表者が用いました資料から一部分を抜粋して掲載しましたのでご了承願います。

## 金濱興一の「北方の民 1」

### □多賀城碑



この碑には、多賀城が神亀元年(724)に大野東人(おおのあずまひと)によって設置され、天平宝字6年(762)12月1日に藤原恵美朝臣朝狩(ふじわらのえみのあそんあさかり)によって改修されたことが記されてある。

最後に碑の建立年月日が天平宝字6年12月1日と刻まれている。

その外、都(平城京)、常陸国、下野国、靺鞨国蝦夷国から多賀城までの行程が記されている。

[まとめ]多賀城碑に記されている、多賀城から靺鞨国、蝦夷国、平城京下野国、常陸国への距離は概ね適当である。

## 平井和夫の「須川長之助について」

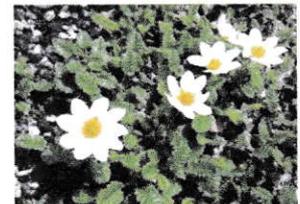
- 安政7年(1860) マキシモビッチ、函館に来日。長之助19歳 函館にわたる。
- 文久元年(1861) マキシモビッチの雇人となり、植物採取法の手ほどきを受ける。
- 慶応元年(1865)~ マキシモビッチの委託により、地方の山々を植物採集する。
- 明治22年(1889) 立山湯元を基地として、大規模な立山採集を行った。この時、初めてドリラス・オクトペタラ・Lを採集し、その後、植物学者牧野富太郎によって、チョウノスケソウの和名を付けられ有名となった。
- 明治34年(1901) 植物学者牧野富太郎、1889年に長之助が立山で採集のドリラス・オクトペタラ・Lに対し、チョウノスケソウの和名を付す。

### チョウノスケソウ属(ドリラス属)

属名のドリラスはギリシャ語の“森の精”あるいは“木の精”という意味である。小さいナラの葉に似た低木である。

種名のオクトペタラは“八つの花びらを有す”ということで多少の変異があるが、普通八枚の花びらを持っている。

これは、バラ科に属し、わずか数種を数えるだけである。



大正14年(1925) 2月24日 自宅にて逝去する。84歳

4月17日「須川長之助翁寿碑」志和稲荷神社社頭に建立

昭和53年(1978) 6月 紫波町名誉町民に推挙

昭和63年(1988) 城山公園に「顕彰碑建立」

平成17年(2005) 没後80記念「須川長之助木像建立」水分公民館

